

# 東京国立博物館 ニュース

2004  
12  
月号

新年にあたって 館長あいさつ 2

博物館に初もうで 3

亀山法皇700年御忌記念特別展 南禅寺 4

ドイツ国立芸術展覧会ホール開催「日本の美 日本の心」帰国展 6

平常展見どころ案内 2004年1・2月 7

扇面法華経冊子 / 舟橋蒔絵硯箱 / 特集陳列「江戸の年中行事」/  
無我 / 九州国立博物館「仮称了はじめの一步」展 など

はくぶつかん散歩 寛延元年の手水鉢 10

十七条憲法制定1400年記念 特別公開

法隆寺 国宝 夢違観音 白鳳文化の美の香り 11

弘法大師入唐1200年記念 空海と高野山 11

高校生講座 11

誌上ギャラリー・トーク 新春特集陳列「染織にみる吉祥模様」 12

INFORMATION コンサート / 賛助会 14

TOPICS / Who's Who in 東博 15

2004年1月・2月の展示・催し物 16



新年にあたって

# 本館全面リニューアル

独立行政法人国立博物館理事  
東京国立博物館長 野崎 弘

あけましておめでとございます。

昨年八月二十九日から十月二十六日までの五十四日間、ドイツのボンで行われた当館所蔵の名品展「日本の美 日本の心」には、約十万人の観覧者が訪れ、大好評を得ることができました。その帰国展を一月二十七日から開催します。ドイツでの反響などもお伝えできればと思っています。

本館の展示については、昨年、まず二階の展示を時代別展示にリニューアルし、本年さらに全面的なリニューアルをいたします。アンケートによると、来館者の七割方は時代別展示に賛成でありましたが、分野別の展示を充実させてほしいという意見も多数ありました。こうした意見も生かしてまいります。今年の全面リニューアルは九月一日オープンの予定で、残念ながら七月と八月の二か月間、本館は休館ということになります。その間、他の展示スペースで日本美術の展示ができないか、参加型の事業ができないかなど検討を進めております。

さて、一口にリニューアルといっても億単位の経費が必要となります。国の予算ではなかなか認めてくれなかったことでしょう。独立行政法人になって、自由な予算執行が許されるようになり、可能となりました。しかし、資金は捻出しなければなりません。その原資は皆様からいただく観覧料です。私は、観覧料は単なる施設の使用料ではなく、館の行う事業に対する皆様からの賛助金と考えております。

館員一同、皆様の要望にこたえられる事業を行うべく全力を尽くします。

今年も、当館の事業に対し、ご指導、ご協力、ご援助を賜りますようお願いし、新年の挨拶といたします。

## 2004年特別展予定

龜山法皇700年御忌記念特別展「南禅寺」1月20日(火)~2月29日(日)

ドイツ国立芸術展覧会ホール開催「日本の美 日本の心」帰国展

期：1月27日(火)~2月15日(日) 期：2月18日(水)~3月7日(日)

弘法大師入唐1200年記念「空海と高野山」

4月6日(火)~5月16日(日)

2005年日本国際博覧会開催記念「世紀の祭典 万国博覧会の美術

パリ・ウィーン・シカゴ万博にみる東西の名品」

7月6日(火)~8月29日(日)

「中国国宝展 (仮) 9月28日(火)~11月28日(日)

## 本館リニューアル予定

9月1日(水) 本館リニューアル グランドオープン

\*これにともない7月~8月は本館を休館させていただきます

東京国立博物館は新年1月2日から開館

# 博物館に初もうで

申年にちなんだ特別展示やイベントで、新しい年を祝います。

## 新春特別展示「申・猿・さる」

1月2日(金)～1月31日(土) 本館特別第3室・特別第4室

猿は、わたしたち人間にとって、もっとも馴染みの深い生きものの一つです。それは、かれらがふとした折りにみせる表情や仕草に、なんとなく親近感をおぼえるせいかもしれません。そういえば、動物園でも、猿がいるエリアは、いつもたくさんの人で賑わっていますね。

さて、ここは動物園ならぬ博物館。私たちは申年の初めにあたり、猿たちを描いた美術品の特集を試みることにしました。

教科書などで、あまりにも有名な猿の埴輪(はにわ)は中国南宋時代に描かれた、じつに精細な猿の絵姿。印籠(いんろう)の「見ざる言わざる聞かざる」にみる愛嬌あふれる猿たち。そして、大取りをとつめるのは、近代彫刻の至宝、高村光雲作



猿図 伝毛松筆 南宋時代・13世紀  
武田信玄が曼殊院に寄進した猿の絵。高邁な思索にふけっているかのような猿の表情が印象的

### 【主な展示作品】

- 埴輪 猿 古墳時代・6世紀
- 狂言面 猿 元休作 江戸時代・18世紀
- 老猿 高村光雲作 明治26年(1893)
- 猿図 伝毛松筆 南宋時代・13世紀など

の「老猿」です。

ふわふわと、やわらかい毛に包まれたぬいぐるみのような猿、赤い顔にどんぐり眼で、ユーモラスな仕草をみせる猿、そして、仲間同士、くっつくことなく群れ遊ぶ猿たち……。美術品に描かれた猿は、どれをとってもまことに個性的で、見れば見るほど愛らしさがつとてきます。

どなたもご存じのように、猿はとても俊敏な動物です。瞬く間に大樹の梢へと駆け登り、知恵を廻らして日々の糧を得ています。博物館に足を運んでいただいたみなさまには、その精気に満ちた姿を、ぜひ見ていただきたい。そして、めでたい年の初めを、ともに祝おうではありませんか。(小松大秀)

### 表紙解説

## 新春特別展示「申・猿・さる」から みなぎる気迫 老猿



老猿 高村光雲作  
明治26年(1893)  
光雲は最愛の長女を亡くした悲しみをこの作品の制作を通じて克服していきます。造形の端々にその気迫がみなぎっています

右手上方を眼光鋭くかつと見据え、左手には鷲の羽が握りしめられ、手や足には羽毛が散乱しています。羽や羽毛によって、直前まで展開していたこの巨大な猿と鷲との激しい格闘が暗示され、飛び去った鷲を追うその視線によって雄大な空間が示される

ています。

作者は幕末・明治の激動期を生きた彫刻家、高村光雲で、この作品は明治二十六年(一八九三)のシカゴ万国博覧会に出品され、妙技二等賞を受賞しました。光雲四十一歳の作品です。時代の転換によって先行きも分からず黙々と木彫に励んだ光雲の才能は、三代から四十年代にかけての時期に一気に開花します。この老猿は、光雲の代表作であるとともに近代彫刻の黎明期を象徴する作品ともいえるでしょう。(岩佐光晴)

### 新春特集陳列

12月23日(火・祝)～2月15日(日)  
「染織にみる吉祥模様」本館第3室  
吉祥模様に彩られたきものや袱紗などを集めます。  
厚板 浅葱地三崩鳳凰菱模様 江戸時代  
打掛 納戸縷子地亀甲橋模様 江戸時代  
夜着 納戸紗綾地松竹鶴模様 江戸時代 など

1月2日(金)～2月15日(日)  
「吉祥 歳寒三友を中心に」  
東洋館第3室  
不老長寿の松、平安の竹、子孫繁栄の梅の歳寒三友を中心に中国の吉祥図を特集。  
墨梅図 呉太素筆  
元時代 貞観園保存会蔵  
靈鵲報喜図 李珣筆 清時代 など

### 新春イベント

お猿さんも登場! にっぽんの正月を満喫してください

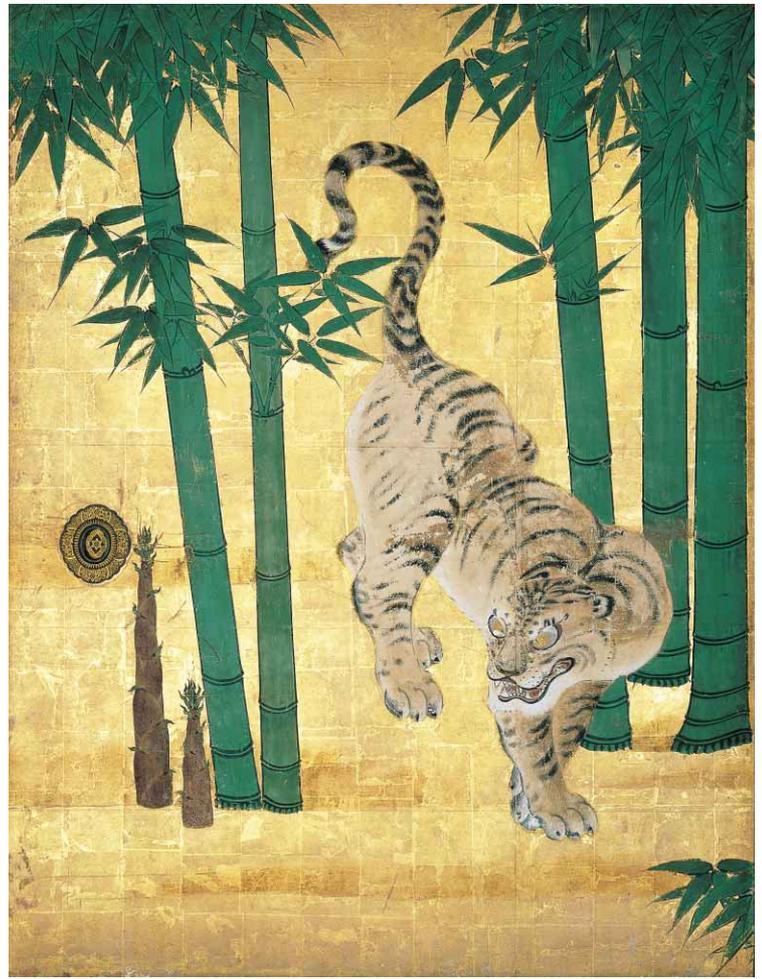
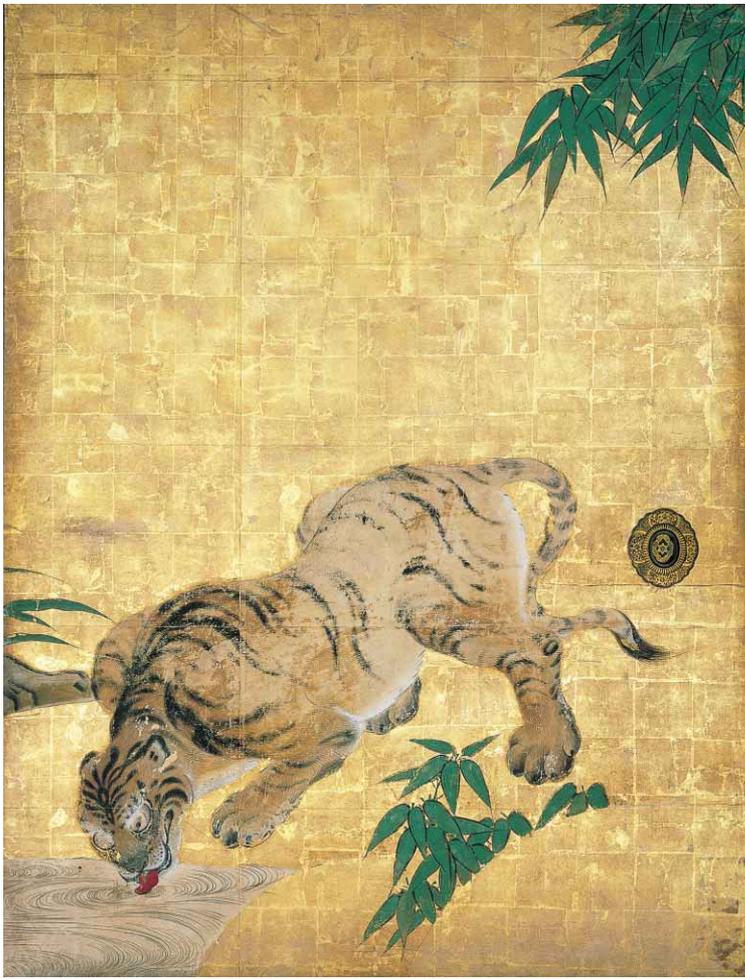
- 1月2日(金) 和太鼓演奏 和太鼓御響 11時/14時  
正門内池前(雨天時は本館玄関外、または中止)  
猿まわし 猿舞座 村崎修二氏 12時/15時  
正門内池前(雨天時は本館玄関外、または中止)
- 1月3日(土) 箏曲演奏 正派合奏団 11時/15時  
本館エントランスホール
- 1月4日(日) 獅子舞 東都葛西囃子睦会 11時/15時  
本館玄関前(雨天時は本館玄関外、または中止)

### こども向け 新春特別企画

博物館探険：申年編～悟空の大冒険～

1月2日(金)～1月7日(水) \*5日(月)は休館です  
「西遊記」をテーマに、関連した作品を探します。  
クイズ形式のワークシートをもって、さあ出発!  
ワークシートは本館インフォメーションで配布します。  
(小・中学生対象 参加無料)

1月2日(金)～4日(日)は、各日先着100名様に  
東京国立博物館「国宝カレンダー」を贈呈



群虎図 狩野探幽筆 江戸時代・17世紀 南禅寺蔵  
虎は靈獸として武將たちに好まれた画題

龜山法皇700年御忌記念特別展

# 南禅寺

京都東山の古刹・南禅寺の寺宝を展観。  
禅林文化の奥深さに触れる

## 京都・鎌倉五山の上

南禅寺は、天皇家が建てたとい  
たいへん由緒のあるお寺です。天皇を  
退位し、出家もした龜山法皇が正応四  
年（一二九一）に自らの離宮を寺院とし  
たことに始まります。その八年後に法  
皇がその寺の繁栄を願って書き上げた  
のが、「龜山法皇起願文（国宝）」です。  
その力強い筆遣いに法皇の強固な意志  
がうかがわれます。下半部に焼け跡が  
見られますが、応永二十九年（一四二  
二）の火災によるものと伝えられ、当  
時の僧侶が必死に取り出した様子がし  
のべれます。

南北朝時代以後、南禅寺は京都・鎌  
倉五山の上に位置づけられ、禅宗寺院  
として最高の寺格を時の権力者から与  
えられる一方、五山における文学・芸  
術の中心地でもあったのです。「溪陰小  
築図（国宝）」は、南禅寺の僧子璞のた  
めに、友人が子璞の心の中の書齋を描  
き、多くの高僧が詩と序文を書き添え  
たものです。応永二十年（一四一三）  
に成立しました。室町時代の五山派の  
禅院では、多数の漢詩文を備える掛軸  
（詩画軸）が盛んに制作されました。こ  
の図は、詩画軸の全盛期に、しかもそ  
の流行の中心地である南禅寺で作られ  
た詩画軸の代表作です。

## 以心崇伝の再興

このように全盛を誇った南禅寺で  
すが、応仁の乱の戦場となり、伽藍・  
塔頭のすべてを兵火によって焼失しま

した。しかしながら、徳川幕府の政  
治・外交の中枢に関わった以心崇伝に  
よって、慶長年間以降、主要伽藍の多  
くが復興再建されました。その建物の  
中には、多くの近世の障壁画が残って  
います。桃山時代に狩野派によって描  
かれた本坊大方丈のものは有名です  
が、この本坊小方丈にある「群虎図」  
（重要文化財）も狩野探幽筆とされる  
優作です。建物の建立年代は詳らかで  
はありませんが、襖絵は寛永年間頃の  
制作とみられます。小方丈の襖絵のな  
かでもっとも力量あふれ卓抜している  
のがこの「水呑みの虎」と称される場  
面です。

このような優れた作品の数々によ  
って、南禅寺の長い歴史の中で受け継  
がれてきた禅林文化の奥深さに触れて  
いただきたいと思えます。

（安達貞哉）

### 龜山法皇700年御忌記念特別展 南禅寺

1月20日(火)~2月29日(日)

東京国立博物館 平成館

主催：東京国立博物館 大本山南禅寺 朝日新聞社

後援：文化庁

協賛：凸版印刷

協力：日本香堂

観覧料：一般1,200円(1100/1000円)

高校・大学生800円(700/600円)

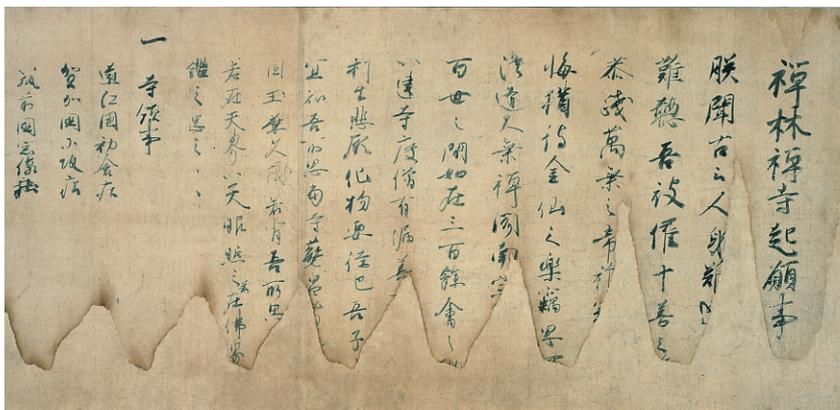
小・中学生400円(300/200円)

\* ( )内は前売り/20名以上の団体料金

\* 障害者とその介護者1名は無料です。入館の際に、障害者手

帳などをご提示ください

巡回予定：4月6日(火)~5月16日(日) 京都国立博物館



●亀山法皇起願文  
鎌倉時代・永仁7年(1299)南禅寺蔵  
亀山法皇が寺の繁栄を願って自ら書き  
上げた文書  
展示期間 1月20日(火)~2月15日(日)

関連事業・イベント

記念講演会

1月24日(土)南禅寺の禅風

臨済宗南禅寺派管長 中村文峰

2月7日(土)金地院崇伝とその事跡 東京国立博物館

情報管理室長 田良島哲

各日とも13時30分~15時(予定)

東京国立博物館平成館大講堂にて

定員各回380名(事前申込制)

聴講無料、ただし当日の入館料が必要です

【申込方法】

往復はがきの「往信用裏面」に郵便番号、住所、氏名、電話番号(日中に連絡がとれる番号) 聴講希望日を、「返信用表面」に郵便番号、住所、氏名を明記し、「南禅寺展」イベント事務局へお申し込みください(一枚のはがきで一人、一講演のみお申し込みいただけます)

【締切】

1月7日必着。応募多数の場合は抽選。1月14日頃までに結果を通知します

宗徧流による茶会

1月31日(土) 2月1日(日)

両日とも 10時~ 11時~ 12時~  
13時~ 14時~ 15時~

東京国立博物館 庭園内応挙館にて

定員各回50名(先着順・事前申込制)

【料金】

2500円(特別展観覧料込み)

【申込方法】

往復はがきの「往信用裏面」に郵便番号、住所、氏名、電話番号(日中に連絡がとれる番号) 希望日時(第三希望まで) 参加人数を、「返信用表面」に郵便番号、住所、氏名を明記し、「南禅寺展」イベント事務局へお申し込みください。後日、料金振込銀行口座をお知らせします

坐禅会

2月11日(水・祝) 11時~12時30分  
14時~15時30分

東京国立博物館庭園内応挙館にて

定員各回50名(先着順・整理券配布)

参加無料(ただし当日入館料が必要です)

【申込方法】

当日午前10時から東京国立博物館平成館ラウンジにて参加整理券を配布します

申込・問い合わせは

「南禅寺展」イベント事務局

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-28-9

ヤマナシビル4F

TEL 03-3639-0725(平日9時30分~18時)



●溪陰小築図 太白真玄等七僧贊  
室町時代・応永二〇年(一四一三)  
京都・金地院蔵  
室町時代に禅林で流行した詩画軸の代表作  
展示期間 1月20日(火)~2月8日(日)

# ドイツ国立芸術展覧会ホール開催 「日本の美 日本心」帰国展

ヨーロッパの人々の目に、心に、強い印象をのこした日本の美が帰ってきました。ドイツのボンで開催された東京国立博物館名品展から、七十件の作品を紹介します。

昨年の夏から秋にかけて、ボンにあるドイツ連邦共和国国立芸術展覧会ホールで開催された東京国立博物館日本美術名品展「日本の美 日本心」の帰国展です。前号で紹介したとおり(第662号 12~13頁)、ボンでの展覧会は十五世紀から十八世紀、室町時代から江戸時代にかけての日本美術を概観するものでした。この時代は、文化を創造する側と、それを鑑賞し享受する側が飛躍的に広がり、増えた時代です。以後ここで形成された多様な文化が、現代につながる日本文化の基礎になっていきました。ドイツでは、国宝三件、重要文化財十九件を含む百十七件を、六つのテーマを設けて紹介しました。

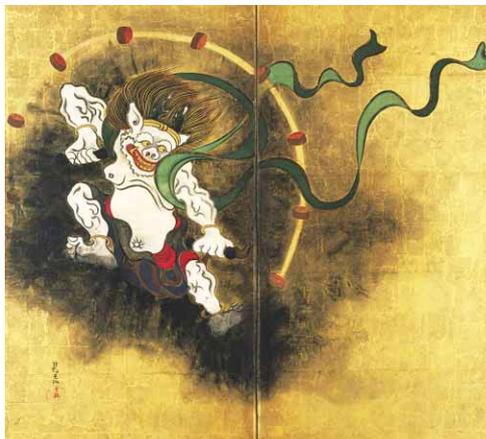
帰国展では、作品の保存上の問題と会場の制約上、会期を二期に分けました。ボンの展覧会場の構成にしたがって、七十件を陳列します。ドイツでは最初に武家の象徴として源頼朝(伝)の坐像を展示しました。少し時代はさかのぼりますが展覧会の象徴として注目を浴びました。本展でも、最初に陳列して全期間ご覧いただきます。第一期では、武士の装いと生活・書院・能楽から、●檜図屏風 狩野永徳筆 ●太刀 銘 長光 号大般若長光 ●秋冬山水図 雪舟筆、六祖截竹図 梁楷筆、

禾<sup>のぎ</sup>目<sup>め</sup>大<sup>てん</sup>目<sup>めく</sup>、木葉天目、能面中將・平太・小面などを、第二期では、京文化の担い手・茶の湯・琳派から、洛中洛外図屏風(舟木本)、清水寺縁起絵巻、偈頌一休宗純筆、小倉色紙 藤原定家筆、大井戸茶碗(銘有楽)、浜松図真形釜、風神雷神図屏風 尾形光琳筆、関屋図屏風 伝依屋宗達筆、和歌巻 本阿弥光悦筆などを陳列します。●は国宝は重要文化財 (島谷弘幸)



大井戸茶碗(銘有楽) 朝鮮時代・15~16世紀  
質素で飾らない朝鮮の陶器は利休好みの代表

ドイツ国立芸術展覧会ホール開催  
「日本の美 日本心」帰国展  
期 1月27日(火)~2月15日(日)  
期 2月18日(水)~3月7日(日)  
東京国立博物館 平成館  
主催 東京国立博物館 NHK  
一般420(210)円 大学生130(70)円  
\* 平常料金でご覧いただけます  
\*( )内は20名以上の団体料金です  
\* 障害者とその介護者1名は無料です。  
障害者手帳などをご提示ください  
\* 高校生以下、満65歳以上の方は無料です。  
年齢のわかるもの(生徒手帳、健康保険証、運転免許証など)をご提示ください



風神雷神図屏風 尾形光琳筆 江戸時代・17世紀 宗達の最高傑作を光琳が模写したもの



●檜図屏風 狩野永徳筆 桃山時代・16世紀 金地濃彩の豪華絢爛さ、画面いっぱいに巨木を描く大胆な構図がみるものを圧倒する

平安絵画・書跡

### 王朝の暮らしも映す装飾経

扇面法華経冊子 1月20日(火)〜2月29日(日) 本館第11室



●扇面法華経冊子 平安時代・12世紀 竹やぶにわなを仕掛けて雀を取る場面

扇紙を二つ折りにして重ね、折り目を糊つけた粘葉表の冊子本です。装飾経は王朝貴族の信仰と美意識を反映して成立したものです。中でもこ

れは、奇抜な装丁や華麗な下絵などから、珍奇な遺品として注目されています。もとは『法華経八卷に、開経(序説として説いた経)の『無量義経』、結経(結論として要旨を述べる経)の『観普賢経』を加えた十帖を一セットとします。現在は、大阪・四天王寺に五帖、東京国立博物館に巻第八の一帖が伝存するほか、断簡が諸家に分蔵されています。各帖の表紙には、『法華経』を護持する十羅刹女の姿が宮廷の女房の姿によせて描かれています。また、一葉ごとに、舟遊びや紅葉狩り、水汲みなど、当時の貴族生活や市井の風俗が描かれており、大和絵としても貴重な作品です。

(島谷弘幸)

工芸の至宝室

### 非常識が生んだ芸術

舟橋時絵硯箱 12月23日(火・祝)〜3月7日(日) 本館第2室

まず、ここに載せた写真を見てください。なんと不思議な形の箱ではありませんか。蓋はこんもりと盛り上がり、まるで餅が膨らんだような形をしています。これについては、いろいろな説があつて、光悦晩年の住まいである洛北鷹峯の山容を写したものと、ともいわれます。鷹峯はほんとうにこんな形をしているので、かなり説得力がありますね。

(小松大秀)

それから、もう一つの見所は蓋に掛け渡された黒々とした橋でしよう。奇妙な蓋の形、橋の厚い鉛板……。ふつうの時絵師なら、こんなことは絶対考えつきません。非常識をあえてして、しかもすばらしい作品に仕立て上げてしまつ。光悦ならではの鋭い感性の閃きを、目の当たりにする思いがいたします。



●舟橋時絵硯箱 本阿弥光悦作 江戸時代・17世紀 燦然と輝く金地に黒い橋を架けて、後撰集の「東路の佐野の舟橋かけてのみ思ひわたるを知る人ぞなき」の歌意を表す。光悦時絵の代表作

国宝室

### 苦みの極限を描く

地獄草紙絵巻 1月20日(火)〜2月29日(日) 本館第12室

筆舌に尽くし難い苦しみと束縛を受け続ける地獄道。お経では、さまざまな地獄の様相を説いています。本絵巻に描かれた地獄は、『正法念処経』に説かれる叫喚地獄の中の十六の小地獄のうち髪火流・火未虫・雲火霧・雨炎火石の四つ。もとは十六の小地獄全てが揃っていたと考えられています。

岡山の安住院に伝来しましたが、元来は後白河院の蓮華王院宝蔵に収蔵されていた六道絵の一部である可能性が指摘されています。

(沖松健次郎)



●地獄草紙絵巻 平安時代・12世紀 平安末期に流行した六道思想に基づくもの。燃え盛る炎に苛まれる苦悩と戦慄の様を描く



四性の内・小烏丸の一腰  
葛飾北斎筆 江戸時代・19世紀  
小烏丸という銘の刀をモチーフにした春興摺物

一月はお正月、そして成人の日があり、華やかな和服姿をよく見かけます。暮れから新年にかけては、神社やお寺に詣でる人も多いでしょう。今ではあまり見かけなくなりましたが、羽根突きや綱揚げなど子供達の遊びを通して、日本の伝統文化が意識される時期でもあります。江戸の人々の暮らしがに思いをめぐらし、浮世絵が身近に感じられる季節とも言えそうです。

江戸の趣味人達は新年に趣向を凝らした版画を自費で制作し、交換会を催しました。この配りものの版画を摺物と呼んでいます。正月の風俗を描いた錦絵のほか、狂歌師仲間とつき合いの深かった窪俊満と葛飾北斎が制作した摺物、さらにこの季節にあった歌川広重の名所絵を加えて展示いたします。また、申年にちなみ猿の姿も加えました。お見逃しなく。

(田沢裕賢)

私達の暮らしや社会には美にさまざまな年中行事があります。年中行事は時代や地域により移り変わってきましたが、古くからの朝廷の行事にならったものが数多くあります。展示では、江戸時代における公家や幕府の伝統的な年中行事をはじめ、民衆の生活にも深く結びついた行事の様相を紹介いたします。気候や生活習慣などの変化もあって、現代では忘れ去られようとしている年中行事の歴史的な意義を見つめなおしてみましよう。

「江戸の年中行事」より  
豊年万作おどり  
江戸時代・19世紀  
豊作の前祝や、収穫の感謝のための踊りで、全国各地で行われた



「江戸の作法」より  
甲青着次第書  
江戸時代・18世紀  
甲青を着用するまでの過程を正確に描いている

作法は、他人との関わりにおける立居振舞の意味に用いられています。たとえば室町時代に成立した小笠原流は、江戸時代、武士の礼法として一般化し、その礼法がしだいに町人や農民の上層部に影響を与え、近代の礼儀作法の基準となりました。今日では、伝統的な文化の伝承として意識されていますが、これを単なる形式ととらえるのではなく、長い間に培われた人間の知恵として、江戸時代の作法を見直してみたいと思います。

(高橋裕次)

## 江戸の趣味人の楽しみ 新年の摺物と名所絵

12月23日(火)・祝日・1月25日(日) 本館特別第1室

## 江戸の年中行事

12月16日(火)・1月25日(日) 本館第17室

## 江戸の作法

1月27日(火)・3月7日(日) 本館第17室

近代絵画

## 幼子の無垢な美しさ

無我 1月27日(火)・3月7日(日) 本館第20室

大観(一八六八〜一九五八)の出世作となった作品です。東京美術学校の助教授に就任した翌年、日本絵画協会第一回絵画共進会に出品し、銅賞牌(庶通算五位)を得ました。兄のお下がりのだぶだぶの着物に、鼻緒のゆるんだ草履をはいて、呆然

とたたずむおちよば誦の童子の目に、なにか映っているのでしょうか。川岸のネコヤナギと足元のスミレが早春の息吹を感じさせます。「無我」は大乗仏教において、あらゆることらわれから解放された境地を表す「空」と同義の思想ですが、それを無邪気な童子の姿に託したところに大観の近代的な機知が働いています。発表当時、「無我」どころか、大観の筆致には大いなる野心が感じられるという評もありました。(松原 茂)



無我 横山大観筆 明治30年(1897)  
日本絵画協会第2回絵画共進会出品作  
無邪気な中に、童子形の小金銅仏にも通じる聖性を感じられる

東洋館

### 中国の吉祥図

## 特集陳列「吉祥 歳寒三友を中心に」

1月2日(金)〜2月15日(日) 東洋館第8室

新年にあたり、歳寒三友、すなわち松・竹・梅を中心に中国の吉祥図を展示いたします。厳しい寒さの中で、松と竹は常緑を保ち、梅は百花に先駆けて花を咲かせて清香を放つことから、中国では松・竹・梅は、厳しい環境の中でも節度を守り不変の志と豊かな心をもつものとされ、歳寒三友と称えられました。さらに、松には古くから不老長寿、竹には平安、子孫繁栄、梅には子授けなどの願いもこめられています。一見自



靈鵲報喜圖 李玥筆 清時代・18世紀  
鵲は吉兆を予告する靈鳥とされる

然を描いたと思われる中国の花鳥画は、多くの場合、実は、蓮・水鳥・魚は豊かさ、牡丹は富貴、桃は長寿

葡萄・瓢箪・石榴などは子孫繁栄、鳳凰は天下泰平、蝙蝠は福というように人々のさまざまな願いがこめられたものであり、吉祥図として中国の人々に親しまれてきました。福・禄・寿・喜の願いがこめられた中国の絵をぜひご覧ください。

(湊 信幸)

寄贈品展示室

### 江戸の教養娯楽本

## 特集陳列「徳川宗敬氏寄贈本 絵本」

1月6日(火)〜2月29日(日) 平成館寄贈品展示室

徳川本は、昭和十八年(一九四三)に一橋徳川家の宗敬氏から寄贈された和書の大コレクションです。一橋家学問所の旧蔵書、先代の達道氏が収集した江戸時代の写本・版本など約一万二千八百件は、広範な分野に及び、しかも他には見られない多くの貴重書を含んでいます。今回は江戸時代に発達した教養娯楽中心の絵本を選びました。平易な仮名まじり文で記した「仮名草子」や、元禄期の

風俗・人情を描いた「浮世草子」のほか、通俗的な小説に浮世絵師が挿絵を入れた草双紙で、当時の世相、風俗、事件などを流行語をまじえて写実的に描写した、黄表紙などです。これらをおしりて、江戸の出版文化における絵本の世界をご覧ください。(高橋裕次)



しらぬいものぐたり 白縫 譚 三編上・下 柳下亭種員著、歌川豊国画 江戸時代・19世紀  
妖術使いの姫が活躍する「谷巻」中の最大長編。上下2冊で1枚の絵になる

法隆寺宝物館

### 唐の国から伝来

## 七弦琴

12月23日(火)祝〜2月29日(日)

法隆寺宝物館第4室

中国の琴は戦国時代には五弦でしたが、漢時代に七弦になりました。桐製で、全体に黒漆を塗り、表面に弦の押えどころである十三個の徽を螺鈿で示しています。裏に龍池や鳳沼とよぶ方形の響孔を作っています。その龍池に、開元十二年(七二四)に九龍県で作られたことが墨書されています。九龍県は、現在の四川省成都彭州台で、この辺りは琴の名産地として知られていました。正倉院の金銀平文琴とともに唐から伝わった古楽器として貴重な遺例にあげられます。表面全体に漆のヒビ(断文)が現れていますが、中国では琴の断文を自然の装飾効果として賞美しました。(原田一敏)



●七弦琴 唐時代・開元12年(724) 奈良の都で奏でられた唐の音

考古

### 古代の絵解きを楽しむ

## 特集陳列「弥生時代の人物表現と絵画」

1月6日(火)～2月22日(日) 本館第4室

弥生時代には、土偶や土製品などの立体造形が少なくなる一方で、土器や青銅器に、人物や動物、建物などを表現したものがみられるように

なります。これらは、当時の人々の観念的世界を読み解く貴重な情報源です。

人形の容器や顔の付いた壺は、主

に東日本で作られました。顔に入墨のような模様をもつのが特徴的で、先祖霊や神を表したものと考えられます。一方、線画は西日本を中心に発達しました。銅鐸や土器に鹿・人物・建物などのよく似た画題を描いており、共通の神話的な物語りを表現している可能性があります。

本展示では、平成十五年度考古資料相互貸借事業の借用資料を含め、当館の関連資料をまとめて展示します。ぜひ想像力を働かせて、弥生の「絵解き」に挑戦してみてください。

(安藤廣道)



●銅鐸 狩獵風景 伝香川県出土 弥生時代・紀元前1世紀

九州国立博物館(仮称)

### 2005年秋開館への序章

## 「はじめの一步」展

2月17日(火)～3月28日(日)

本館特別第3室・特別第4室

国立博物館といえば東京、京都、奈良の三館があります。国立博物館が建つのはいずれも歴史のある土地ですが、かの九州の大宰府にも、平成十七年(二〇〇五)秋の開館を目指して第四の国立博物館が建設中であるのをご存知でしょうか。

九州国立博物館の構想は古く、すでに百年ほど昔に岡倉天心が主張していました。日本の文化は日本列島のなかだけで考えることはできず、広くアジアという立場で見なければ理解しがたい性質のもです。九州は古い土地ですが、その歴史は常に海外との窓口であったのが特徴です。そのような土地の性格を生かし、アジアのなかの日本、そして世界のなかの日本という立場から歴史と文化

を理解していただくのが九州国立博物館の目的です。

来る二月より、新しい所蔵品を含めた九州国立博物館の一端を東京国立博物館で公開する運びとなりました。「唐物と茶」、「銀の島日本と南蛮美術」、「長崎貿易」の三つのテーマ展示などを行います。

百年の大計の結果、その過程をぜひご覧ください。



建設中の九州国立博物館(仮称)  
\*九州国立博物館ホームページURLは <http://www.kyuhaku.com/pr/> です。所蔵品やスタッフの紹介など、いま生まれようとしている博物館のアクティブな情報満載です



ゆてきてんもく 油滴天目茶碗 南宋時代・12～13世紀  
東京国立博物館保管(開館後は九州国立博物館保管)  
中国伝来の小さな銀河をご覧ください

## 散歩かんぱく 5

### 寛永寺の忘れ物?

## 寛延元年の手水鉢

当館の敷地が旧寛永寺の本坊跡に位置していることはみなさんご存じです。ただ、たたら寛永寺ゆかりのものがあってもおかしいかという疑問をおもちのかたもいらっしゃるかもしれません。でも、ここから寛永寺ゆかりのものを探したそうとすると、意外にたいへんなのです。

法隆寺宝物館の脇、そうです、校倉(せうくら)旧十輪院(じゆりんゐん)のある林を囲む堀のむこう側です。そこに一個の石造りの手水鉢があります。

砂岩系の石でできたきれいなもので、表面に奉獻上ノ盤盤(ばんばん)一基ノ寛延元戊辰年九月十四日とあり、その左側面には、中津国右衛門藤原「七六」人の献上者名が彫られています。もともとどこにあったかはわかりませんが、でもその銘文から寛永寺ゆかり

のものであることは容易に察せられます。

寛永寺が今の地へ移るときに、あるいはここに博物館が出来たときも、だれにも知られることなく残っていたものなのでしょう。それにしても寛延元年(一七四八)の献上ですから二六〇年もの間、自らの存在を主張することもなくじっとしていたのですから、ある意味ではつらやましい存在でもありますね。

(上野人哉)



寛永寺ゆかりの手水鉢

十七条憲法制定一四〇〇年記念

特別公開「法隆寺 国宝 夢違観音」

白鳳文化の美の香り」



●夢違観音像 飛鳥時代(白鳳文化期)・7世紀

平成十六年(二〇〇四)は、聖徳太子が推古十二年(六〇四)にわが国最初の法典として知られる「十七条憲法」を制定してから一四〇〇年に当たります。当館と法隆寺ではこれを記念して、特別公開「法隆寺 国宝 夢違観音 白鳳文化の美の香り」を開催します。夢違観音像は白鳳彫刻

の名作としてよく知られますが、江戸時代には法隆寺東院にある絵殿の本尊としてまつられ、悪夢を吉夢に変える観音として信仰されました。法隆寺東院は奈良時代に太子のたのめ聖域として創建された伽藍で、絵殿には平安時代に描かれた国宝聖徳太子絵伝が障子絵としてはめ込ま

れ、同時期に作られた聖徳太子七歳像が安置されましたが、今回はこれら絵殿の関連作品が一堂に会します。このほか、鎌倉時代の十七条憲法の版木と、遣隋使の一員として名高い小野妹子が中国からもたらしたという伝承のある国宝細字法華経も同時に展示されます。(金子啓明)

講演会

3月6日(土)13時30分～15時(開場13時予定)  
平成館大講堂

「聖徳太子の精神 - 十七条憲法について -」  
聖徳宗管長・法隆寺住職 大野玄妙  
定員380名(事前申込制)

聴講無料(ただし当日の入館料は必要です)

【申込方法】

往復はがきの往信用裏面に法隆寺講演会希望の旨および氏名(ふりがなを必ず付けて下さい)住所 電話番号 年齢、返信用表面に郵便番号、住所、氏名を明記し、下記までお送りください

【締切】

2月20日必着。応募多数の場合は抽選

【申込先】

〒110-8712 台東区上野公園13-9

東京国立博物館教育講座室

「法隆寺講演会係」

列品解説

3月12日(金)14時から(開場13時30分予定)  
平成館大講堂

「国宝 夢違観音について」

当館事業部長 金子啓明  
定員380名(当日先着順)

十七条憲法制定1400年記念  
特別公開「法隆寺 国宝 夢違観音」  
白鳳文化の美の香り」

3月2日(火)～4月11日(日)  
東京国立博物館法隆寺宝物館 第6室

主催：東京国立博物館 法隆寺

特別協力：NHK

\* 平常料金(一般420円、大学生130円)でご覧いただけます

\* 高校生以下と満65歳以上は無料。入館の際に、生徒手帳か年齢のわかるものをご提示ください

\* 障害者とその介護者1名は無料です。入館の際に障害者手帳などをご提示ください

高校生講座のお知らせ

講演会

第1回 3月6日(土)

13時30分～14時30分

「考古学への招待 - 銅鐸って何? 鳴らしてみよう」

教育普及課長 井上洋一

第2回 3月20日(土)

13時30分～14時30分

「金工って何? - 仏像を飾る様々なもの -」

ボランティア室長 加島 勝

平成館1階小講堂また資料館セミナー室  
定員各回40名(事前申込制・先着順)

【申込方法】

氏名(ふりがな) 住所 電話番号  
学校名 学年 講座希望日をご記入のうえ、FAX、e-mail、または往復はがきでお申し込みください。各回ごとの申し込みとなります

【申込先】

〒110-8712 台東区上野公園13-9

東京国立博物館教育講座室

FAX: 03-3822-3010

e-mail: edu@tnm.jp

若き日の弘法大師空海(七七四～八三五)は延暦二十三年(八〇四)に密教を求めて中国・唐に渡り、帰国後の弘仁七年(八一六)に高野山(和歌山県)を真言密教の根拠地と定めました。以来、高野山は政治の中心地から常に一定の距離を隔てた山岳霊場だったこともあって、戦乱に巻き込まれることもなく、仏教の聖地として今日まで連綿と人々の信仰を集め続けています。この間、高野山には密教美術はもちろんのこと、宗派を超えた仏教美術の名品が数多く集積しました。空海が入唐してからちょうど二百年目にあたる平成十六年(二〇〇四)の春、あらためて弘法大師空海と高野山の歴史を振り返るとともに、総本山金剛峯寺をはじめ、高野一山に花開いた仏教美術の全貌を紹介します。国宝・重要文化財約百二十件を含むおよそ百五十件の至宝を一望できるまたとない機会となるでしょう。空前の規模と質を誇るこの展覧会を心ゆくまでご堪能ください。(松原 茂)



金銅三鉗杵(飛行三鉗杵)  
平安時代・9世紀 金剛峯寺藏

両界曼荼羅(血曼荼羅)胎藏界部分  
平安時代・12世紀 金剛峯寺藏

弘法大師入唐1200年記念  
空海と高野山

4月6日(火)～5月16日(日)  
東京国立博物館 平成館

主催：東京国立博物館  
高野山真言宗総本山金剛峯寺  
財団法人高野山文化財保存会  
NHK NHKプロモーション



密教美術の至宝一五〇件を展示。空前絶後の高野山展  
弘法大師入唐一四〇〇年記念 空海と高野山

# 幸せを願う 祈りの模様 新春特集陳列「染織にみる吉祥模様」



松竹梅に鶴亀、宝尽しなど、お正月の晴れやかな気分に満ちた染織の展示室で吉祥模様に込められた、日本人の思いと祈りを探ります。



講師 小山弓弦葉  
東京国立博物館  
列品室研究員

今回はお正月の展示から、吉祥模様を表したきものや袱紗などをご紹介しましょう。吉祥模様といえは、どんな模様を思い浮かべますか？ 松竹梅、鶴亀、宝船などはたぶんみなさんにも馴染み深いものではないでしょうか。

吉祥とはめでたい兆し、よいことがおこる前兆のこと。日本人は、こうした吉祥模様で身の回りの品を飾り、幸せを祈ってきました。今でも七五三の千歳飴の袋や、結婚式の華やかな衣裳、新年の飾りものなどに吉祥のモチーフが使われています。

これには、長生き、永遠の若さ、富貴、子孫繁栄を祈る心、そんな思いが込められているのです。

こうした吉祥模様は私たちのまわりから徐々に消えつつありますが、江戸時代の人々は、身の回りのたくさんものものに、実にさまざまな吉祥模様を使っていました。私たちがその模様の意味やそこに込められた思いを忘れてしまったものもあるでしょう。それらの作品を見ながら、昔の日本人の幸せとはなんだったのか、そんなことを考えてみたいと思います。

## 祈りのメッセージ

模様はそれぞれ特別の意味をもっています。一年中青々としている松は、永遠の命の象徴です。梅はまだ寒い季節に花を咲かせることから、みずみずしい生命力を表し、万物が再生する春を寿く思いが込められています。それぞれの模様はひとつの

言葉となって、それを使う人、贈る人にメッセージを伝えていくのです。

模様のもつメッセージ性を存分に發揮した例として、袱紗の吉祥模様を見てみましょう。

江戸時代には何かを贈るとき、贈り物に美しい布を掛けて渡す習慣がありました。その布が袱紗です。そこに使われた模様には、贈る人から贈られる人へのメッセージが込められています。

まず中国の伝説をモチーフにした華やかな袱紗を見てみましょう。写真に似た花と実が描かれています。これは周の穆王に、三千年に一度しか実を結ばない靈樹の実をささげたとする西王母の伝説をモチーフにしたものです。この靈樹の実は不老長寿の願いをかなえるものでした。わた



袱紗 紅縮緬地西王母模様  
江戸時代・19世紀 西王母の仙桃は長寿のしるし



袱紗 茶緞子地住吉踊模様  
江戸時代・19世紀 高度な刺繍の技を使って住吉踊りを描く

袱紗 狸々図綴織  
江戸時代・19世紀 お酒の甕を囲んで、幸せそうな狸々の図

したちにとって不思議なのは、西王母その人の姿が描かれていないことです。じつはこの中国風の扇が、西王母の存在を表しているのですが、このように、あるモチーフを直接的に描かず、なにかで暗示させる模様を「留守模様」といいます。江戸時代の人たちはこれらの模様を見ればその意味を読み解くことができました。贈られた人は、とくに説明されなくても、これが西王母のモチーフであること、そして贈り手からの「いつもでも健やかに、長生きしてください」というメッセージをありがたく受け



袱紗 萌黄地繡縮緬地浪錨模様  
江戸時代・19世紀

つぎに、住吉踊りの様を描いた袱紗を紹介しましょう。住吉踊りは、大阪の住吉神社で発祥したもので独特の大きな傘を持って踊ります。傘の上にはぶつう御幣がつけられるのですが、ここでは風流の趣

取ったというわけです。  
模様の謎を読み解く  
模様は謎めいたものが多く、私たちはその意味をすべて読み解けるわけではありません。袱紗のモチーフをいくつか見ながら、どんなときにどんな人に贈られたものなのか、どんなメッセージが込められていたのか探ってみましょう。

たとえば、狸々です。狸々はお酒が大好きな中国の伝説の怪物です。お酒の入った大きな甕のまわりに赤い髪をした狸々が四人います。踊っているもの、笛を持っているもの、お酒を汲むもの。それぞれダイナミックな動きといかにも楽しい表情が、江戸後期に発達した高度な綴織の技法で織り出されています。お酒は百薬の長です。お酒が好きな人に贈られたのでしょうか、お酒を好きな人が贈ったのでしょうか。健康と長寿を願う気持ちが伝わります。



産衣  
紫縮地子大雪輪笹模様  
江戸時代・19世紀  
元気にすくすくと育ち  
ますように」という願  
いを込めて

始めたのかわからなくらい複雑です。これだけの図案はなかなか描けません。出世のお祝い、家の発展を祈る気持ちをこめて婚礼に使われたのか、いずれにしても武家で使用されたものでしょう。

子を思う親の気持ち

幸せを祈る思いの中で、もっとも深く、最も強いのは親が子を思う心ではないでしょうか。自分の子どもが健やかに育つように、江戸時代の産衣はそのほとんどが吉祥模様で飾られています。

とくにお公家さんの世界では、松竹梅に鶴亀などをあしらった蓬菜模様を赤ちやんに着せる慣わしがあります。昔の小さい子からは

だを悪くしたり、早くに死んでしまうことが今よりも多かったのです。吉祥模様には、自分の子どもに邪悪なものをつかないようにという祈りがこめられているのです。

雪の日の情景を歌った、犬は喜び、庭駆けまわる」という童謡がありますね。あの歌をそのまま描いたようなかわいらしい産衣をご覧いただきましょう(写真)。雪輪がちりばめられるなか、駆けまわる子犬が描かれ

ています。一匹一匹、しぐさも表情も違います。葵の紋から、徳川家の息女に使われたものであることが想像されます。犬は丈夫な子をたくさん産むことから、元氣な子どもを成長を祈る気持ちが込められています。

幸せを約束する晴れ着

若い娘さんを飾る華やかな打掛も、その幸せを願う親の気持ちが込められたものです。鮮やかなブルーの地に橋の木が描かれた振袖をご覧いた



打掛  
納戸縮地子地亀甲橋模様  
江戸時代・18世紀  
長寿を祈る橋の模様。花も美も葉もみずみずしい生命力にあふれている

から、町方の娘のために作られた着物だったと思われれます。この立木模様は、インドの更紗の模様にもある生命の樹に根ざしているといわれています。見るからに若々しい橋はみずみずしい生命に溢れているようですね。

こんな吉祥模様を身にまとった娘さんは、どんなに晴れがましく幸せな気持ちになったことでしょう。

いい夢が見られる幸せ

最後に、自分自身の幸せを願う吉祥模様をご覧ください。それは、夜着るもの、そう、お布団の吉祥模様です。

みなさんはどんな布団を着て寝ていますか？ たぶん、花柄などくさしさわりのないモチーフで、リラックサして眠れるようなものですね。布団の柄になにか祈りを込めている人はあまりいないと思います。

ところが、江戸時代の布団、夜着を見ますと、そのほとんどに吉祥模様がつけられています。

昔の日本人は、夜眠るときに吉祥模様のきもの、布団を着て眠りたいという思いが



夜着  
淡奈平縮地若松垂尽模様  
江戸時代・19世紀  
眠っている間の第一の人生でも長寿と、富貴が約束されますように

強かったのでしょうか。今回展示しますのは、若松、宝珠、松竹と鶴梅に橋を描いているものなどです。なぜ、人々は夜着の模様になんかにこだわったのでしょうか。江戸時代までの人々は、夜自分が眠ったあとの世界をとても重要視していたといわれています。夜寝てから自分の第二の人生があると考えていたんですね。眠っている間に悪霊にとりつかれないようにという、強い思いがあったようなのです。

吉祥模様をたどると昔の日本人の祈りや思いが、甦ってくるようです。なにはともあれ、一年の始まりに吉祥模様で目を楽しませ、おめでたい気分を満喫してください。どうかみなさまにとつて、よい一年でありますように。

(構成 小林 牧)

向を凝らして花籠がのっています。この踊りは江戸時代後期になると江戸でも行われており、歌川広重の名所江戸百景にも日本橋通り一丁目に住吉踊りを踊る人々が描かれています。袱紗に刺繍されている人々のきもの柄にも注目してください。向かい鶴、橋、麻の葉など吉祥の気分にあふれた模様が非常に細かく丁寧に描かれています。顔の表情、手の動きなどもほんのついにいきいきとしています。住吉神社の松は、播磨の高砂の松とともに相生の松とよばれ、松は常緑であることから夫婦円満を表します。そんな願いも込められているのでしょうか。

最後に武家好みの錨模様の袱紗を紹介しましょう(写真)。錨は重い船をぐくと押さえつける力があることから、力の象徴として用いられることが多かったようです。江戸時代、武家にたいへん好まれた模様で、家紋や女性の小袖にも使われました。錨と綱と波が、うねりあい、重なりあっています。一体どこから刺繍を

だきましよう(写真)。万葉集には、「橋は実をえ花をえその葉をえ枝に霜ふれどいや常葉の樹と歌われています。霜がおりても若々しく緑の葉を保つ橋は、長寿の象徴であり、いつまでも続く太平の世の象徴でした。このように、根元からたちあがり枝を広げる樹木を、きもの背いっぱいに描く立木模様は、江戸時代の武家に好まれたものです。ただしこの打掛は、使われている染めの技法

コンサート開催のお知らせ

春に贈るヴァイオリン コンサート  
表慶館のホールに美しいヴァイオリンの音色が響きます。皆様に親しまれている小品の名曲を中心にお楽しみいただきます。

日時 3月29日(月)  
昼の部 14時30分開演(14時開場)  
夜の部 19時開演(18時30分開場)

場所 東京国立博物館 表慶館

演奏者 千葉 純子(ヴァイオリン) 浦壁 信二(ピアノ)

主催 東京国立博物館 サロン・ド・ソネット

演奏曲目 ヴァイオリン ソナタ 短調(エクス)  
モスクワの思い出(ヴィニャフスキ)  
四つのロマンティックな小品 Op.75(ドボルザーク)  
テンポ・ディ・メヌエット(クライスラー)  
美しきロスマリン(クライスラー)  
ツイゴイネルワイゼン(サラサ・テ)

料金 5000円 全席自由  
\*当日は法隆寺宝物館の見学ができます(13時15分~19時)  
\*法隆寺宝物館内のレストラン(ホテルオ・クラ ガーデンテラス)がご利用になれます(有料13時15分~19時)

チケットのお求め方法

当館正門観覧券売り場でチケット販売

受付 開館日の9時30分~16時30分

電話予約販売

申込先 TEL 03-3821-9270(東京国立博物館渉外課)

受付 9時30分~17時(月曜~金曜)

\*チケットは、当館正門観覧券売り場にて現金引き換えにてお渡します

引換時間 9時30分~16時30分(開館日のみ)

コンサート当日は13時から開演時間まで引き換え可能です

演奏会当日は、休館日となっておりますが、13時15分から開門いたしますので、当館正門よりご入場ください。誠に恐れ入りますが、表慶館はバリアフリーに対応しておりません。あらかじめご了承ください。お車でのご来館はご遠慮ください。

展示室一時閉室のお知らせ

展示ケースのメンテナンスのため、東洋館および平成館考古展示室で下記の期間閉室となります。

2003年12月15日~12月28日 平成館考古展示室を閉室  
2004年3月1日~14日 東洋館を閉館

ミュージアムショップ ウェブサイト開設のお知らせ

当館ミュージアムショップのウェブサイトが開設されました。グッズの紹介と通信販売のご案内もしています。

URLは <http://www12.ocn.ne.jp/tnm-shop/>

東京国立博物館生涯学習ボランティアの募集

当館では、来館者に対する生涯学習機会の増大とサービスの向上を図るために、生涯学習ボランティアによる活動を行っています。館内の案内や展示品解説、こどもミュージアムや講演会の運営補助、資料整理、データ入力など、博物館とお客をつなぐ活動をしてみませんか。活動は、2004年4月から、3年間です。応募については、当館ホームページ(URL <http://www.tnm.jp/>)に1月中旬頃から掲載しますのでご覧下さい。

問い合わせは、当館教育普及課ボランティア室  
TEL 03-3822-1111まで。

東京国立博物館賛助会員募集のご案内

東京国立博物館では賛助会員制度を設け、当館を幅広くご支援いただいております。賛助会員よりいただいた会費は文化財の購入・修理・調査研究、平常展・施設整備等の充実に充てております。どうか賛助会の趣旨にご理解ご賛同いただき、ご入会ください。ますようお願い申し上げます。

年会費	特別会員	100万円以上
	維持会員	法人 20万円 個人 5万円
特典	特別展の特別内覧会にご招待 国立博物館ニュースの送付	
	* 賛助会員のお申し込みは随時受け付けています。 * ご希望の方には資料および東京国立博物館賛助会員(TNM Members)入会申込書をお送りします。	
	* お問い合わせは 東京国立博物館渉外課 渉外開発係	
	03-3822-1111(代)	

東京国立博物館賛助会員 平成15年11月1日現在

特別会員

- 日本電設工業株式会社 様
- 東京電力株式会社 様
- 株式会社 コア 様
- 安田生命保険相互会社 様
- 株式会社 精養軒 様
- 毎日新聞社 様
- 日本経済新聞社 様
- 大日本印刷株式会社 様
- 株式会社 大林組 東京本社 様
- 朝日新聞社 様
- 株式会社 ホテルオ・クラエンタープライズ 様
- 株式会社 ミロク情報サ・ビス 様
- 株式会社 りそな銀行 様
- TBS 様
- NHK 様
- 昭和鉄工株式会社 東京支社 様
- 株式会社 鴻池組東京本店 様
- 株式会社 東京新聞・中日新聞社 様
- 株式会社 電通 様
- 読売新聞東京本社 様
- 宇津野 和俊 様
- 伊藤 信彦 様
- 小金井造園株式会社 様
- 財団法人ソニー教育財団 様
- 株式会社 NTTドコモ 様
- 斎藤 京子 様
- 井上 萬里子 様
- 森本電気興業株式会社 様
- 田添 博 様
- 株式会社 鶴屋古信 様
- 株式会社 東京美術 様
- 篠内 匡人 様
- 服部 禮次郎 様
- 岩沢 重美 様
- 高田 朝子 様
- 齋藤 京子 様
- 齋藤 邦裕 様
- 日本通運株式会社 美術品事業部 様
- 株式会社 安井建築設計事務所 様
- 株式会社 ナガホリ 様
- 井上 静男 様
- 和田 喜美子 様
- 佐々木 芳絵 様
- 藤原 紀男 様
- 小田 昌夫 様
- 吉岡 昌子 様
- 松本建設株式会社 様 ほか3名様、順不同

維持会員

- 三菱電機ビルテクノサービス株式会社 様
- 早乙女 節子 様
- 株式会社 三冷社 様
- 東日本電信電話株式会社 様

レストラン改装のお知らせ

東洋館のレストラン精養軒は、上野の老舗の味が博物館観覧の際に気軽に楽しめる、みなさまに親しまれてきました。このたび、より快適な空間で楽しいひとときを過ごしていただけるよう、店内を大幅に改装することになりました。室内のスペースを拡張し、インテリアとメニューをリニューアルいたします。

この改装のため、2003年12月22日~2004年2月5日まで一時閉店をさせていただきます。この間、お客様にはたいへんご不便をおかけいたしますが、どうかご了承くださいますようお願い申し上げます。

新しい精養軒にご期待ください。

\*お詫びと訂正

本誌662号の15ページ「MUSEUM」586号の掲載論文に関する記事で「東京国立博物館サイン計画1」の筆者名に「吉田知佳 神庭信幸」とあるのは、「吉田知加」の誤りです。当該論文は吉田研究員が単独で執筆したものです。お詫びして訂正いたします。

東京国立博物館友の会 & パスポート

**友の会** 年会費 1万円 発行日から1年間有効  
**特典** 東京・京都・奈良国立博物館3館の平常展は何度でもご覧いただけます。特別展に関しては、観覧券を12枚配布。そのほか、本誌の定期郵送や、友の会対象のイベント・講演会の開催などさまざまな特典があります

**パスポート** 一般 3000円 学生 2000円  
 発行日から1年間有効  
**特典** 東京・京都・奈良国立博物館3館の平常展は何度でもご覧いただけます。特別展に関しては、各1回計6回までご覧いただけます

お申し込みは当館の窓口あるいは郵便振替で友の会

加入者名(振替先) 東京国立博物館友の会  
 口座番号 00160-6-406616  
 金額 1万円  
 \*振替用紙には郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号・職業・年齢・性別・メールアドレス(メールサービス希望の場合)を楷書でご記入ください

**パスポート**  
 加入者名(振替先) 東京国立博物館パスポート  
 口座番号 00120-3-665737  
 金額 一般3000円、学生2000円  
 \*振替用紙には申込区分(一般か学生)・郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号・学生の場合は学校名および学生証番号を楷書でご記入ください

\*振替用紙の半券が領収書になります。会員証、パスポートチケットが届くまで保管しておいてください  
 \*振替手数料はお客様の負担となります

お問い合わせ  
 東京国立博物館渉外課 渉外開発係  
 TEL 03-3822-1111(代)

東京国立博物館ニュース定期郵送のご案内

本誌の定期郵送をご希望の方は、年間(6冊分)1000円の送料・事務費のご負担でご自宅にお届けします

お申し込みは郵便振替で  
 加入者名(振替先) 東京国立博物館ニュース  
 口座番号 00100-2-388101

\*振替用紙には郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を楷書でご記入ください  
 \*お申し込みは1年ごととなります。複数年のお申し込みは受けられませんのでご了承ください  
 \*振替用紙の半券が送料の領収書になります。1年間保管しておいてください  
 \*振替手数料は申込者のご負担となります  
 \*次号より送付ご希望の場合、締切は2月10日です

東京国立博物館利用案内

開館時間：9時30分～17時  
 (入館は閉館の30分前まで)  
**休館日**：毎週月曜日(祝日、休日の場合は翌日)、年末年始(12月29日～1月1日)、ゴールデンウィークおよび夏休み期間(7月20日～8月31日)は原則として無休

**平常展観覧料金**  
 一般420(210)円、大学生130(70)円  
 \*( )内は20名以上の団体料金  
 \*障害者とその介護者1名は無料です。入館の際に障害者手帳などをご提示ください  
 \*満65歳以上、および高校生以下の方の平常展観覧は無料です。入館の際に年齢のわかるもの(生徒手帳、健康保険証、運転免許証など)をご提示ください

東京国立博物館 留学生の日

文部科学省教育文化庁の一環として、11月1日(土)を留学生の日とし、日本で学ぶ留学生のみなさんを東京国立博物館に無料でご招待しました。当日は、お天気にも恵まれ、三連休の最初の土曜日にあたったこともあり、四六〇名もの留学生にご来館いただきました。特別公開中の国宝「松林図屏風」をテーマとした講演会や東京藝術大学音楽学部のご協力による邦楽の演奏など、留学生のためのイベントもお楽しみいただきました。さらに当館の生涯学習ボランティアの企画により、留学生のための展示解説や庭園内応挙館での茶会なども行われました。留学生のみなさんに日本の伝統文化に触れていただき、また、われわれスタッフをはじめ日本人と留学生の触れ合うよい機会になりました。

奈良国立博物館でも11月1日、京都国立博物館では11月7日を留学生の日とし、留学生のみなさんをご招待しました。

二〇〇四年は11月の第一土曜に行つて予定です。



東京藝術大学音楽学部の協力による邦楽演奏会



庭園内応挙館でのお茶会 正座はちょっとつらそう?

『MUSEUM』587号

(平成15年12月15日発行予定)の掲載論文

古代比丘像の着衣と名称 僧 祇支汗衫・偏衫・直襟について

吉村玲 早稲田大学名誉教授  
 雲岡中期石窟新論 沙門統曇曜の失脚と胡服供養者像の出現

石松日奈子  
 山梨・本国寺所蔵推定康永四年銘孔雀文書について

加島勝当館ボランティア室長  
 \*購読のお問い合わせは 当館ミュージアムショップ  
 03 3822 0088まで



Who's Who in 東博

モノから広がる世界を読み解く



平常展室主任研究員 安藤 廣道

専門は考古学(弥生時代)。博物館では考古資料と民族資料の展示・研究をしています。

小学生のころから考古学に興味があり、いわゆる考古少年でした。家の近くだった横浜・港北ニータウンの発掘現場にはことも頃か通つて、大学生発掘場から前職である横浜市歴史博物館に勤めていた時期まで実際に発掘調査に携わることになりました。

発掘された考古資料は、作った人々の生活や技術そして世界観や美意識をも反映しています。研究者は、遺跡や遺物に残された情報を注意深くまた総合的にみることでそれらを少しずつ読み解いていきます。展示にあたっては、考古資料で歴史の流れをみていただくだけでなく、人々がモノに込めた想いも感じ取れるようにできればいいな、と思っています。また、民族資料の場合は、生活に根ざしたものが多く、人々の暮らしの具体的な様子やわかるような展示もしていきます。考古資料も民族資料も、モノを単体としてみるのではなく、そこから広がる人々の暮らしや考え方へと想像力を働かせられたらいいですね。

1 THU	休館日
2 FRI	「博物館に初もうで」和太鼓演奏 11:00 / 14:00 池前 猿まわし 12:00 / 15:00 池前
3 SAT	箏曲演奏 11:00 / 15:00 本館エントランスホール
4 SUN	獅子舞 11:00 / 15:00 本館玄関前
5 MON	休館日
6 TUE	
7 WED	🌿 14:00 🗨️ 11:30 / 15:30
8 THU	
9 FRI	🗨️ 11:30 / 15:30 🔍 13:30
10 SAT	
11 SUN	🗨️ 11:30 / 15:30 🔍 13:30
12 MON	
13 TUE	休館日
14 WED	列品解説「中国の仏教美術 - 天龍山石窟を中心に -」14:00 東洋館第1室 🌿 14:00 🗨️ 11:30 / 15:30 ⓘ 14:00
15 THU	
16 FRI	🗨️ 11:30 / 15:30 🔍 13:30
17 SAT	🗨️ 11:00 🌿 14:00
18 SUN	講演会 美の暦・睦月 - 「漆芸にみる吉祥文様」13:30 平成館大講堂 🗨️ 11:30 / 15:30 🔍 13:30
19 MON	休館日
20 TUE	龜山法皇700年御忌記念特別展「南禅寺」 列品解説「西アジアの青銅器」14:00 東洋館第3室
21 WED	🌿 14:00 🗨️ 11:30 / 15:30 ⓘ 14:00
22 THU	
23 FRI	🗨️ 11:30 / 15:30 🔍 13:30
24 SAT	1 記念講演会「南禅寺の禅風」13:30 平成館大講堂 🗨️ 11:00
25 SUN	🗨️ 11:30 / 15:30 🔍 13:30
26 MON	休館日
27 TUE	「日本の美 日本の心」帰国展 期 列品解説「桃山の具足」14:00 本館第6室
28 WED	🗨️ 14:00 🌿 14:00
29 THU	
30 FRI	🔍 13:30
31 SAT	3 茶会 🌿 14:00 🗨️ 11:00 「博物館に初もうで」最終日

1 SUN	3 茶会 🔍 13:30
2 MON	休館日
3 TUE	列品解説「観音菩薩立像(百済観音)模造について」 14:00 本館第11室
4 WED	🌿 14:00 🗨️ 11:30 / 15:30 ⓘ 14:00
5 THU	🚶 13:00 / 14:30
6 FRI	🗨️ 11:30 / 15:30 🔍 13:30
7 SAT	2 記念講演会「金地院崇伝とその事跡」13:30 平成館大講堂 🌿 14:00 🚶 13:00 / 14:30 🗨️ 11:00
8 SUN	🗨️ 11:30 / 15:30 🔍 13:30
9 MON	休館日
10 TUE	列品解説「弥生の絵画を読み解く」14:00 本館第4室
11 WED	坐禅会 11:00 / 14:00 応挙館 🌿 14:00 🗨️ 11:30 / 15:30 ⓘ 14:00
12 THU	🚶 13:00 / 14:30
13 FRI	🗨️ 11:30 / 15:30 🔍 13:30
14 SAT	🚶 13:00 / 14:30 🗨️ 11:00
15 SUN	🗨️ 11:30 / 15:30 🔍 13:30
16 MON	休館日
17 TUE	列品解説「絵画と注文主 - 木下逸雲筆耶馬溪図巻をめぐって -」 14:00 本館第18室
18 WED	「日本の美 日本の心」帰国展 期 🌿 14:00 🗨️ 11:30 / 15:30 ⓘ 14:00
19 THU	列品解説「九博：はじめの一歩展の逸品」14:00 本館特別第4室 🚶 13:00 / 14:30
20 FRI	🗨️ 11:30 / 15:30 🔍 13:30
21 SAT	🌿 14:00 🚶 13:00 / 14:30 🗨️ 11:00
22 SUN	🗨️ 11:30 / 15:30 🔍 13:30
23 MON	休館日
24 TUE	列品解説「石川県白山比咩神社出土の銅造十一面観音像」 14:00 本館第8室
25 WED	🌿 14:00 ⓘ 14:00
26 THU	列品解説「九博：はじめの一歩展の逸品」14:00 本館特別第4室 🚶 13:00 / 14:30
27 FRI	🔍 13:30
28 SAT	🚶 13:00 / 14:30 🗨️ 11:00
29 SUN	🔍 13:30 龜山法皇700年御忌記念特別展「南禅寺」最終日

3/7  
まで  
🌿 = ボランティアによる樹木ツアー 場所：前庭内  
🗨️ = ボランティアによる浮世絵版画展示解説 場所：本館1F  
🚶 = ボランティアによる本館ハイライトツアー 場所：本館  
🗨️ = ボランティアによる陶磁室エリアガイド 場所：本館1F  
🔍 = ボランティアによる考古展示室ガイド 場所：平成館考古展示室  
🗨️ = ボランティアによる法隆寺宝物館ガイドツアー 場所：法隆寺宝物館

\* 上記の予定は予告なく変更になることがあります。当日の予定は、インフォメーションカウンターでご確認ください  
1,2,3は事前申込制です(3は有料)。詳しくは本誌5ページをご覧ください。

京都国立博物館 1月10日(土)~3月7日(日)  
特別展覧会「アート オブ スター・ウォーズ PART2  
EPISODE ・ + 」

奈良国立博物館  
1月4日(日)~2月8日(日)  
特別陳列 大和の神々と美術 七支刀と石上神宮の神宝

東京国立博物館二コース第663号 平成16年1月1日発行(隔月1回奇数月発行) 編集/東京国立博物館広報室 C東京国立博物館  
発行/東京国立博物館 〒110 8712 東京都台東区上野公園13-9 TEL03-33822111(大代表) \*ホームページ URL http://www.nnm.jp/ 独立行政法人国立博物館ホームページ URL http://www.natmus.jp/ 制作・印刷/株ONPアーカイブ・コム